

(千種区 18.18Km²)

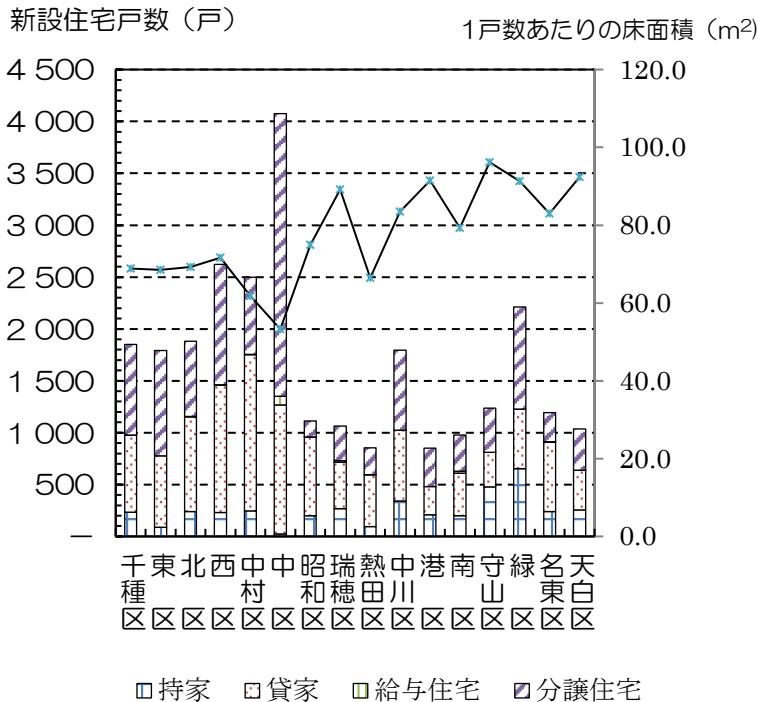
統計なごやweb版 <http://www.city.nagoya.jp/shisei/category/67-5-0-0-0-0-0-0-0-0-0.html>

千種区の新設住宅着工戸数

今回は統計データ（国土交通省「建築動態統計調査」）に基づいて、新設住宅着工戸数および1戸あたりの床面積を見ていきます。

図 1: 区別利用関係別新設住宅の着工戸数

および1戸あたりの床面積（令和元年）

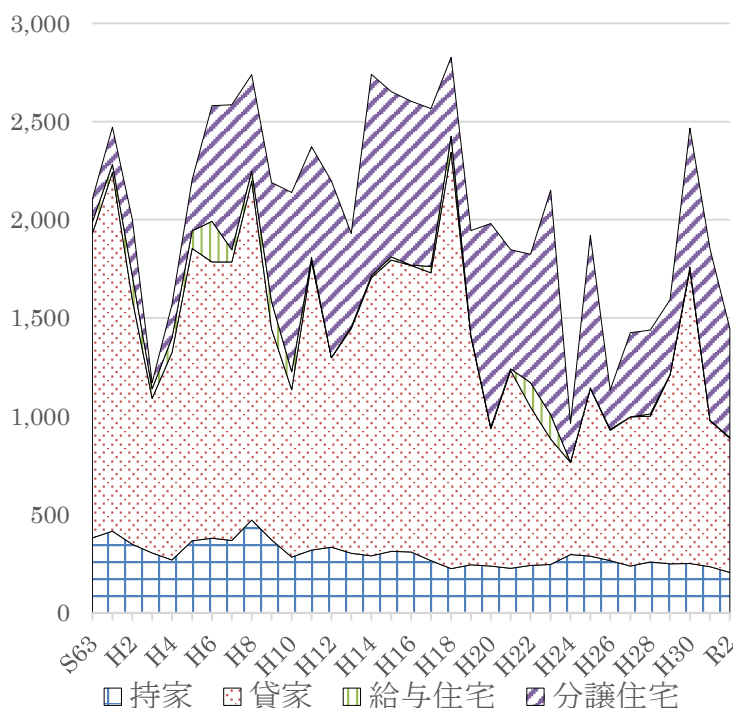


千種区の令和元年中の新設住宅着工戸数を見ると（図 1）、多い順に中区（4,074 戸）、西区（2,621 戸）、中村区（2,498 戸）と続き、千種区（1,851 戸）は第6位となっております。これは名古屋市全体（27,046 戸）の約 6.8%を占めています。

利用関係別の戸数でみると、千種区は持家 89 戸、貸家 687 戸、給与住宅 0 戸、分譲住宅 1,015 戸となっています。

これらの新設住宅着工戸数の、1 戸あたりの床面積を区別で見ると、大きい順に守山区（96.2m²）、天白区（92.3m²）、港区（91.5m²）と続き、千種区は 68.9m²で 12 番目でした。これは名古屋市平均（73.8m²）よりも 4.9 m²狭い値です。

図 2: 千種区の利用関係別新設住宅着工戸数の推移（S63～）



次に千種区の新設住宅着工戸数の推移を見ていきます。（図 2）

昭和 63 年以降の利用関係別新設住宅着工戸数の推移を見ると、総数ではバブル崩壊後の平成 3 年には前年度比で 40%以上減少しました。その後持ち直したものの平成 19 年、平成 24 年にも対前年度比で 30%以上減少するなど、右肩下がりの傾向でしたが、平成 30 年には前年比 154%の着工増加となりました。令和 2 年には対前年度比で 20%以上の減少となり再び右肩下がりの傾向となっています。

内訳をみると持家は年間 300 戸程度で変動があまり大きくないのに対し、貸家や分譲住宅は年ごとの変動が大きいことがわかります。特に分譲住宅は、平成 25 年に 755 戸、平成 26 年には 200 戸、令和元年には 872 戸と年によって大きな差が見えます。